武漢大学留学レポート

日程：2018 年 4 月 9 日から 5 月 18 日
基礎上級配属講座：病理学講座

151068　佐藤理香子

武漢大学留学者

石井　三千花
川俣　智洋
吉田　潤

1．はじめに(中国を選んだ理由)

この基礎上級の留学枠に応募した理由は、個人的に中国の歴史小説(特に北方謙三の三国志や水滸伝や史記)が好きだということと、海外経験が他の人に比べて少なく英語に不安がありヨーロッパ圏(ベラルーシ医科大学)とアメリカ圏(マウントサイナイ医科大学)に応募するのが少し怖かったからです。また、中国は簡体字を使うが、日本語で使う漢字と同じ意味のものも多く、おおよその意味が分かるから生活がしやすいと思ったからです。

2．武漢大学の基本情報

武漢大学は中華人民共和国の湖北省武漢市武昌区に位置しています。学部は人文学部、社会科学部、化学部、工学部、情報社会学部と医学科学部があり、医学部キャンパスはメインキャンパスから離れているところに位置しています。医学科学部は基礎医学、病理学、公衆衛生、薬学、看護学部、第一臨床医学(人民医院)、第二臨床医学(中南医院)、口腔科学(武漢大学口腔医院)、医学研究機関の学科があります。

日本との時差は 1 時間。武漢市は歴史ある建造物が多くその景観を崩さないようにしていました。武漢で有名な観光名所は中国で一番長い長江や東湖や黄鶴楼、戸部港があります。

3．中国での生活

まず一日の流れですが、私の配属された病理学講座は毎朝 8 時から 20 人程度の研究者や教授らと会議室で 30 分間ほどのカンファレンスがありました。そのカンファレンスが終わると中国人用と外国人用の両方の病理学の授業を出席しました。そして空きコマには外国人用の脳内科や形成外科などの臨床講義や、生理学の授業や公衆衛生学部の授業に参加したりしました。放課後は石井三千花さんと医学部キャンパス内のバスケ部に混ざってバスケをしたり、日本に興味があるという中国人達と夕飯に食べに行ったりしました。私たちは土日に授業はなかったので、中国人や留学生の友達が武漢市を案内してくれました。

3-1．授業一般

武漢大学の授業は 8 時から 1 コマ目が始まり、1 コマ 45 分で休憩が 5 分から 10 分でした。午前は 5 限目(11 時 45 分から 12 時 25 分)まであるが授業が入ることはめったにないため普通は 11 時 25 分に終わり、昼休憩後の 6 限の授業は 2 時からでした。お昼休みが 2 時間半と長い理由は昼休憩に昼寝をするのが中国人の小さい頃からの習慣のようです。しかし昼の食堂は 11 時から 12 時 30 分までしか営業していないため授業終わってすぐに食べなければならないので慣れるのに時間がかかった。また昼休憩が長いため事務手続き等は 11 時から 14 時半まで事務員の不在のため不便でした。

何人かの生徒は土日や 18 時から授業がある人もいました。中には選択科目で日本語やフランス語を何年間か学んでいるような学生がいて総合大学は自由に自分の勉強したい言語を授業で受けられるのは羨ましいと思いました。自分も中国に留学行くとわかっていたら一年生時で受ける第二外国語の授業の中国語に参加しておけばよかったです。

3-2. 食事について

上の写真は蛋炒飯(卵炒飯)

食堂やコンビ二の人や、寮の管理人は全く英語が通じないため注文する時に写真を撮って指して注文するため少し大変でした。食堂は学生が ID カードにお金を入れて使うシステムで私たちは ID カードを持っていないため一階は使えませんでした。二階は現金が使えて、チケット売り場の人に注文して現金をチケットに換えるシステムでした。最後の方は慣れてスムーズにチケットを交換できたが最初は自分が中国語を話せないことすら分かってもらえず、相手を困らせたり時には怒らせてしまったりもしました。武漢大学の学食のメニューはとても多く安かったです。(右の写真は食堂の中で私のおすすめです)

上の写真は炸酱面

上の写真は馄饨

武漢の方の言い方は怒ったように聞こえてしまい、すこし怖いと思っていましたが利用しているうちに、おばちゃんが何を言いたいのか少し分かるようになったし、おばちゃんがメニューの中国語読み方を教えてくれたので食堂に行くのが楽しみになり通うようになりました。おばちゃんが何かをつぶやいていましたが何を言っているのかは分かりませんでしたが日本に帰る前の日に食堂のおばちゃんに中国語でお世話になったことと日本に帰ることを伝えるとレシートの後ろに感謝のコメントを書いてくれたのでとても嬉しかったです。

3-3. 寮について

寮は迎賓楼で 2~3 人用のビジネスホテルのようなところでした。お風呂はなくシャワーだけでした。私達の部屋はベッドが 2 つで洗濯機がなく冷蔵庫とケトルはありましたが使いませんでした。男子の方は洗濯機があったので、男子の部屋の洗濯機を貸してもらいました。男子の部屋のエアコンのリモコンがなかったのですが、女子部屋のエアコンのリモコンが使えました。掃除用具はなく、担当の事務員に伝えるとシーツ換えや掃除をしてくれます。また私達の部屋の鍵が 1 つしかないため、三千花さんと私の授業の終わる時間が違う時が多く男子の部屋で待たなければならず、非常に不便でした。

※女子部屋や男子部屋と書いていますが、どこの部屋を男子用女子用にするかは特に決まっていません。次行く学生がどの部屋になるかわかりません。

3-4. クラブ活動

わたしは硬式テニスとダンスサークルに所属していますが、三千花さんがバスケ部なので一緒に医学部キャンパスのバスケ部に参加させていただきました。昨年の秋頃に武漢大学からの交換留学生(4 人)が福島に滞在期間中、2 回ほど交流する機会があり、その時に 4 人の交換留学生のうちの王さんが武漢大学のバスケ部だったから石井さんに女子バスケの友達を紹介してくれました。武漢に行く前に女子バスケ部の方と連絡先を交換していたため私たちはスムーズに部活動に参加することができました。

バスケ部では私は初心者だったため体育の授業でやったようなパス回しなどの練習には参加をしたが、ポジションを決めてのオフェンス・ディフェンスの練習の時は周りで見ていました。その間は中国学生と喋って交流することができて楽しかったです。中国の学生は日本の漫画やアニメやドラマをよく知っていて一緒に話しました。夏目友人帳やナルトやスラムダンクや名探偵コナンは話題にあがりました。

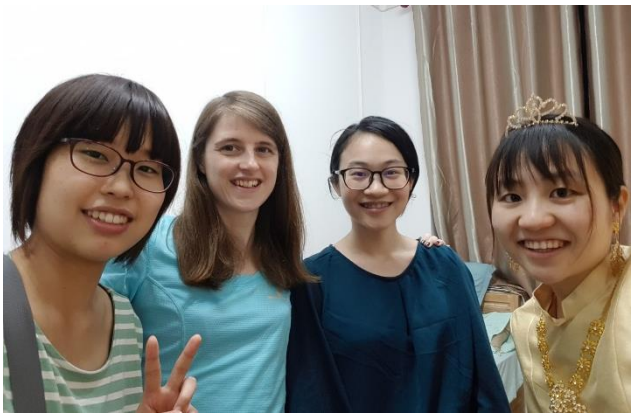
上の写真は三千花さんとバスケコートの予約メモ

上の写真はバスケ風景

部活の練習では外部コーチが来ていてバスケの試合が近いためコーチの同期のプロが 3~4 人来て対戦相手になって本格的な練習をしていました。滞在中の最後の二週間に武漢大学バスケの学部対抗戦の大きな試合があり、みんなはそれに向けて頑張っていました。中国ではバスケ人口が多くバスケコートも充実していました。バスケのコートは屋外にあり、バスケボールさえあれば夜でもライトがついているのでいつでも練習できる環境でした。私たちが参加した、第二臨床女子バスケ部は去年学部対抗戦の試合で優勝したそうです。でも今年は最後の決勝戦まで行きましたが負けてしまい準優勝でした。バスケの決勝戦が中国を出国する前日で私たちは応援に行けなかったのが今でも心残りです。下の写真は 3 回戦目で勝ったあとの写真です。

3-5. 外国人留学生との交流

武漢大学にはたくさんの外国人留学生がいて主にインドやミャンマーやフィリピンから来ている学生が多かったです。Mint さんというタイ人の武漢大学 5 年生の方が私たちの面倒を見てくれました。彼女は毎年、武漢大学へ行く日本人留学生と交流していて 4 年ほど前の武漢へ行った先輩方のことも知っています。彼女なしでは武漢大学での生活はここまでスムーズで濃密なものにはならなかったと思います。



左から石井三千花、ステファニーさん、Mint さん、佐藤理香子
写真は私がタイの伝統的な衣装を着させてもらった時の写真。

Mint さんとの出会いは昨年の冬に福島に遊びに来ていた時にアカペラやダンスサークルが出演するクラブの「JFB」で武漢に行った先輩が次に武漢大学に行く私たちに Mint さんを紹介してくれました。武漢についた当日の深夜 Mint さんはすぐに寮まで来てくれてお水とトイレットペーパーを持ってきてくれました。深夜にコンビニが閉まっていて飲料水すらなく、付き添いの学生はすぐに案内したら帰ってしまったためとても助かりました。次の日からご飯に誘ってくれたり、デパートをみたりしながら近くの場所を案内してくれました。写真のステファニーさんはイギリス出身で Mint さんと同じルームメイトで彼女にも優しくしてもらいました。下の写真は Mint さんがタイのグリーンカレーとトムヤンチキンを作ってくれてみんなで食べたときの写真です。辛さを調整してくれておかわりするほど美味しかったです。

Mint さんから天ぷら作れないか聞かれましたが、誰も天ぷらを作れなくて振舞うことができなかったので日本に帰って天ぷら作りに挑戦しようと思います。

もうひとり私が紹介したい留学生は、インド人の Ekansh さんで(右の写真の右から 2 番目)、とても親切で優秀な 3 年生の学生でした。私たちが武漢大学で学生証の発行の事務手続きが滞っていて困っている時に一緒について行ってくれて翻訳をしてくれたり黄鶴楼も連れてってくれたりしました。また彼の寮で日本料理を振舞ったり、逆にインド料理を作ってくれたりという交流をしてとても楽しかったです。私たちの作った日本食は親子丼とナスの素揚げと冷奴と味噌汁とおひたしです。めんつゆの値段と味噌の値段が異常に高かったですがなんとか作ることができました。見た目が美味しそうではありませんでしたが掲載します。
別な日に彼がインドカレーを作ってくれるということでたくさん作ってもらいました。とっても美味しかったです。

左の二つの写真は Ekansh さんが作ってくれたカレー。右は私たちが作った Japanese food

4. 病理学講座と病理の授業の様子

私は解剖学講座の病理学に配属されました。病理学研究所は臨床病理学と基礎病理学と 2 つの構成から成っていて、研究とともに臨床として中南病院の患者の生検から病理学的診断を下している機関です。写真一番右の Chen(陈)先生は以前、福島県立医科大の基礎病理学講座に留学し千葉先生に世話になったそうで日本(福島)のことを知っているため日本と中国で病理学診断の基準の違いを比較しながら話してくださり、理解しやすかったです。(上の写真は右から Chen(陈)先生、佐藤理香子、吉田潤、川俣智洋)

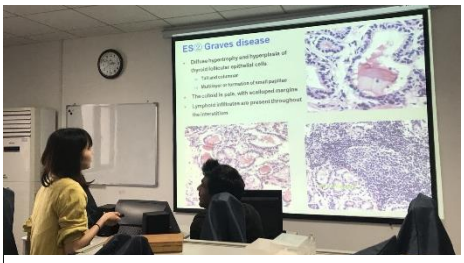
Chen 先生の紹介により主に Xue(薛)先生(右の写真)が担当する授業に出席しました。Xue 先生は面倒見がよく、中国人クラスの他に外国人用クラスも受け持っていて英語が流暢でさらに褒め上手な先生でした。私たちのために中国人クラスでも

時に英語を使って説明してくれました。

武漢大学の病理学はいくつかのクラスに分かれて行われていました。教室での講義は 100 人程度いましたが実習では 1 クラス 20 人程度でした。

中国人の講義では生徒達は比較的真面目で全員が教科書を持っている様子でした。先生はスライドを使って教科書にそって説明していましたが、プリント類は配らず生徒は重要なところを教科書にペンで下線を引いていました。Xue 先生の授業はスライドを提示しながら生徒全体に問いかけ、反応を見ながら授業を進めていて質問に答える生徒が多かったです。医大の授業では先生が全体へ質問をした場合、生徒は基本的に黙ったままで答えないことが多いから中国人の授業態度は積極的だと思いました。

上の写真は中国人クラスの病理の実習



上の写真は外国人クラスの病理の実習

病理学の実習は顕微鏡とパソコンが置いてある比較的小さい部屋で行われていて、私たちと同様に講義を聞いてそのスケッチして提出するという流れでした。評価は点数制です。

福島県立医科大の病理学では標本は見ず、パソコン上で病理学の標本をみながら病変部位を強拡大と弱拡大で書いて、その余白にその病態や描写の説明を書いて提出します。一方中国人授業ではパソコン上でその標本とその説明を参考にするが、スケッチは標本を顕微鏡で見て行なっていました。机にはパソコンと顕微鏡が置いてありスケッチをするスペースが少ないため基本的に生徒は顕微鏡で見たものを写真に撮って家に帰ってからスケッチをして後日提出するという流れでした。

5. 病院見学

中南病院と人民病院で病院見学を行った。中南病院では一般内科(呼吸器/血液内科/消化器内科/脳内科)、脳外科、婦人科、救急科を、人民病院では精神科と心臓内科を見学させていただきました。

流れとしてはどの診療科も朝 8 時からカンファレンスを行いその後回診、そのあとはカルテを書いたり外科手術をしたりしていました。

写真は血液内科でのカンファレンスの後にカルテの書き方を研修医に教えている様子

① 呼吸器内科(中南病院)

呼吸器内科は通常日中に 80 人ほどの患者を診察するそうで、特に冬になると日中だけで 100 人以上になるそうです。呼吸器内科では女の先生が回診の際に片方の肺に胸水がたまっている患者の呼吸音の違いを聴診器で私たちひとりひとりに聞かせながら教えていただきました。また気管支鏡検査の様子も見せていただきました。

② 産婦人科(中南病院)

婦人科のフロアでは病床数が足りない様子で廊下にもベッドが置いてあり患者で溢れていました。中には遠方から来ている患者とその旦那さんや家族もいて、先生は回診の時に地方の村から来ている患者の家族に経済的な問題も含めて治療や手術の提案をしていました。

回診後に途中までですが腹腔鏡での子宮頚がんの子宮の全摘出術とその周りのリンパ郭清を行うところを見せてもらいました。忙しいながらも画面にでてくる臓器と今摘出しようとしている箇所を教えてくれたため、とてもありがたかったです。

③ 精神科(人民病院)

精神科は閉鎖病棟と開放病棟があり私たちは主に開放病棟のフロアを見学させてもらいました。開放病棟では平日の朝の 8 時にも関わらずどの患者も家族がいて後から聞いたのですが、開放病棟に入る条件として必ず 24 時間患者のそばに身内がいることだそうで家族の負担が大きいと思いました。

ここでは日本語が話せる研修医の Jack さんが説明をしてくださり、とても理解しやすかったです。彼は日本語を 4 年間大学で勉強して話せるようになったそうです。

④ 脳外科

右の写真は脳外科を見学した時の様子です。昨年の秋に福島県立医科大学に留学していた Zou さんが脳外科を専攻していて、脳外科の病院見学は Zou さんを通じで実現しました。この時は Zou さんが案内についていてくれました。回診中、もやもや病の患者が多いなという印象を受けました。もやもや病の患者はこの病院だけで 50 人程度いるそうです。また手術室では脳動脈瘤のコイリングとクリップ手術の説明をしていただきました。コイルはお金がかかるそうでクリップ手術が主流だと聞きました。忙しい中邪魔になるのではとビクビクしていましたが先生方はきちんと説明していただいたので本当に感謝しています。また、Zou さんから武漢大学の目の前のホテルで脳外の学会があることを聞き、脳外の見学とは別な日でしたが、その学会に私たちも出席しました。正直内容は難しかったです。

⑤ 心臓内科(人民病院)

心臓内科ではまず、人民病院の心臓内科の研究室に行き動物実験などをする施設を見学しました。犬を使って心臓血管のモデルを作ったり心臓を動かしながら薬を投与したり移植の研究をやっているそうで、院生が 10 人ほど研究していました。人民病院の心臓内科は有名なようでその理由は昔から心臓内科があって歴史が古く、また最新の治療を取り入れているからだそうです。案内してくれた女の研修医の方は日本に行って心臓内科のミ

ーティングに参加したことがあると言っていました。

⑥ 病院の様子

中国の病院はタバコ禁止と書かれたフロア以外(特に階段)はタバコを吸っている人を何度か見かけ驚きました。階段には患者の洗濯物が干してあったり吸殻が落ちていたりしてタバコ臭かったです。また中国の病床の様子は日本と違って必ず家族がどの患者さんを見ても近くにいて患者一人だけ寝ている状態という人はめったに見かけませんでした。中南病院は大学病院というだけあって地方の村などの遠方から来る患者さんも多く家族がそのベッドの横で寝泊まりしている様子の人も多かったです。日本の病棟の様子は患者のお見舞いに来るのは場合にもよるが日中か夜の 1,2 時間程度だから回診時に患者は一人でいることが多いが、中国では家族が必ず近くに居て回診時に先生は患者とその家族にも様子を聞いているのが印象的でした。Doctor's office では患者の家族が直接入ってきてアポイント無しに先生と話していて中には順番待ちするほど先生を囲っているときもありました。日本だったら手術や治療の話は人の聞こえない場所かまたは時間を設定して個室に案内されるはずですが中国はあまりプライバシーを気にしない様子でとにかく話を聞いてもらいたい様子でした。日本では医師を「お医者様」のようにありがたい存在としていることが多くあまり患者やその家族が医師に気軽に話しかけるような雰囲気ではないのですが、中国では医師に対して家族が患者の要望や様子を細かく医師に伝えている様子で、敷居が高い感じではなく話しやすい雰囲気でいいことですが、一方で医師の仕事中にも構わずに話に行く様子は医師にとっては少し悪い点でもあると思いました。

6. 終わりに

写真は中国の学生と折り紙を挑戦している様子

まず、武漢大学に行きたいと思っている後輩へのメッセージとしては空き時間はせっかく留学しているので他の科目の授業に積極的にでることをおすすめします。授業に出ることで友達も作れますし、6 週間しかいないことを伝えると放課後にどこか連れていくよと言ってくれて長江に連れていってくれました。私たちは空きコマは外国人用の臨床の授業に出席しました。また積極的に武漢大学のサークルや部活に参加したり、メインキャンパスで日本語スピーチコンテストを見たり、中国人にご飯を自分から誘ったり、その国の料理を作ってほしいなどお願いして、一緒に食べたりと深い交流をすることができました。中国人で日本語を学んでいる学生と私の寮で折り紙を教えてその後火鍋というしゃぶしゃぶのようなレストランに連れてってもらい、そのあとカラオケを一緒にしたのもいい思い出です。だから留学希望者へのアドバイスとして勉強や英語はもちろんできた方が良いがアニメや日本の音楽や芸能人やドラマや文化的な遊びを少し嗜んでおくといいと思いました。日本のドラマで石原さとみが主演の「アンナチュラル」や新垣結衣の「逃げるは恥だが役に立つ」は話題に上りました。日本の芸能人を知っている中国人が多かったです。

武漢大学で病理を希望する人は病理で出てくる医学英語は覚えましょう。また私は持っていませんでしたが病理の教科書があると良いです。あとは組織の時に配られる冊子も持っていけばよかったと思いました。また私は自分のスケッチと千葉先生のスライドを持って行きました。おかげで中国人学生とスケッチを見せあう場面がありました。

また、できたら中国語を少しは覚えていきましょう。店先では英語は通じないと思ったほうが良いです「いくらですか？」「これありますか？」「袋はいりません」などは使います。

武漢大学の医学部で 6 週間学ぶ機会を今回いただくことができてほんとうに感謝しています。中国は大気汚染や衛生面やニュースではマナーの悪さなど少しマイナスなイメージを持つかもしれません。たしかに私もトイレやバス停で並んでいても横からはいって並んだり、中国人の食事では机の上に自分が食べないもの例えば魚の骨や嫌いな野菜などをそのまま置いていたり(習慣)驚くことがありました。大気汚染はたしかに進んでいてマスクなしでは歩けないような状態で衛生面も日本に比べると悪いですが、しかし中国人学生ひとりひとりはとても優しく接してくれて急に英語で質問をしても、懸命に説明しようとしてくれる親切な学生が多かったです。もう一度会いたいと思う友達ばかりでした。

留学中は去年の秋に福島県立医科大学に留学していた方(写真右)にとても良くしていただいたため、次に来る武漢大学生にどこかに観光したり食べに行ったりと十分におもてなしをしたいと思っています。

この留学を担当している和栗先生や昨年度に担当していた関根先生、事務員の國分さん、そして武漢大学の Chen 先生と Xue 先生、事務員の呉夏さんには感謝申しあげます。本当にありがとうございました。